



欧米においてすでに急速な発展を遂げつつある FM 放送も、日本においては未だ免許許可の見通しはつきりしていない状態である。従つて FM を受信するセットもメーカーとしては今まで輸出用としての生産は行つて来たが国内向けとしてはサンプル程度で本格的な生産は勿論どこも行っていないように見受けられる。特にポータブル式は少ないように見受けられるが、これは FM 付セットの価格がポータブル式ではまだ相当高額な故ではないかと思われる。しかし、最近では試験放送もいよいよ本格化し、各地で放送されるようになって来たので、需要も必然的に増えるであろうと思ひ、またメーカーもやつと量産体制に入つたので、コストも安定し普及も早いのでは

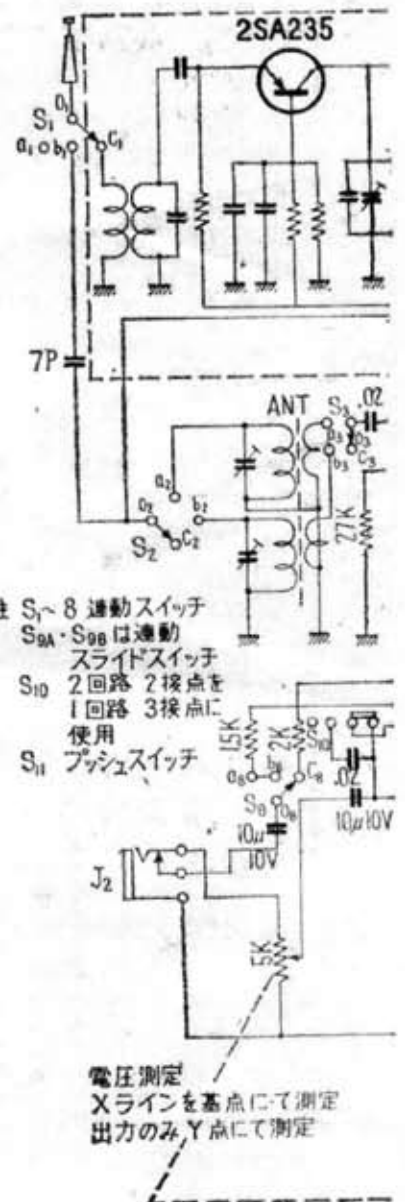
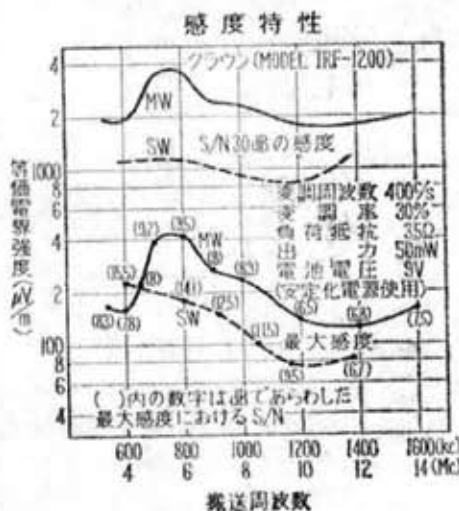
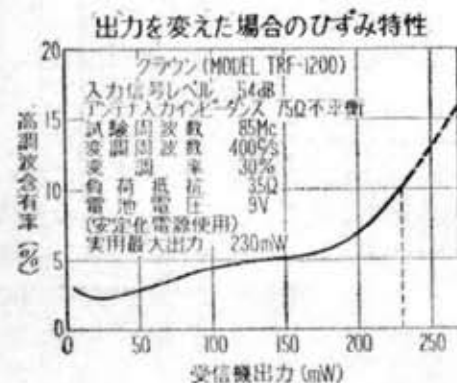
ないかと考える。

ここに早くから海外で好評を得ていた CROWN TRF-1200 AM/FM 3 バンド・ポータブル・ラジオが、今度た内向けとして量産されるようになって来たので、その概要を御紹介しよう。

本機の性能は大体的ようである。使用トランジスタは12石。ダイオード5個、バリスター1個で、受信周波数は AM 側の MW が 535~1,605 kc SW が 4~12 Mc, FM は 76~90 Mc となつている。感度はポータブル・ラジオの生命だから良くなければならぬ。本機は AM 側の MW が 100 $\mu\text{V}/\text{m}/150 \text{ mW}$ 以上で、SW は 80 μV

/m/50 mW 以上となつている。FM 側は付属のモノポール・アンテナ使用で 20 $\mu\text{V}/\text{m}/50 \text{ mW}$ 以上と相当高感度を示している。またいくら感度が良くても内部雑音が多くては決して良いとはいえないが、その点 TRF-1200 は AM 側で入力 500 $\mu\text{V}/\text{m}$ 以下で S/N は 30 dB 以上 FM も入力 30 $\mu\text{V}/\text{m}$ 以下で S/N が 30 dB 以上とれている。

次に FM 放送は音質の良いことが特徴であるが、それを充分活かすため、ポータブル・ラジオとしては大形



になる 75×125mm の楕円スピーカを採用した。

次にFM ラジオを作る上に非常に難しく、大切なこととしてセットから不要な電波を輻射させないということがある。

FM ラジオは周波数が非常に高いVHF を使うため、簡単なシールドではローカル・オシレータで発生する高周波電流が、機器外にどんどん洩れてしまう。この洩れた電波が他の通信機に妨害を与え易いので、国によつては厳重に取締つており、現在のところアメリカ合衆国の FCC 規則が一番権威があるが、それだけにその測定条件は厳しいものである。

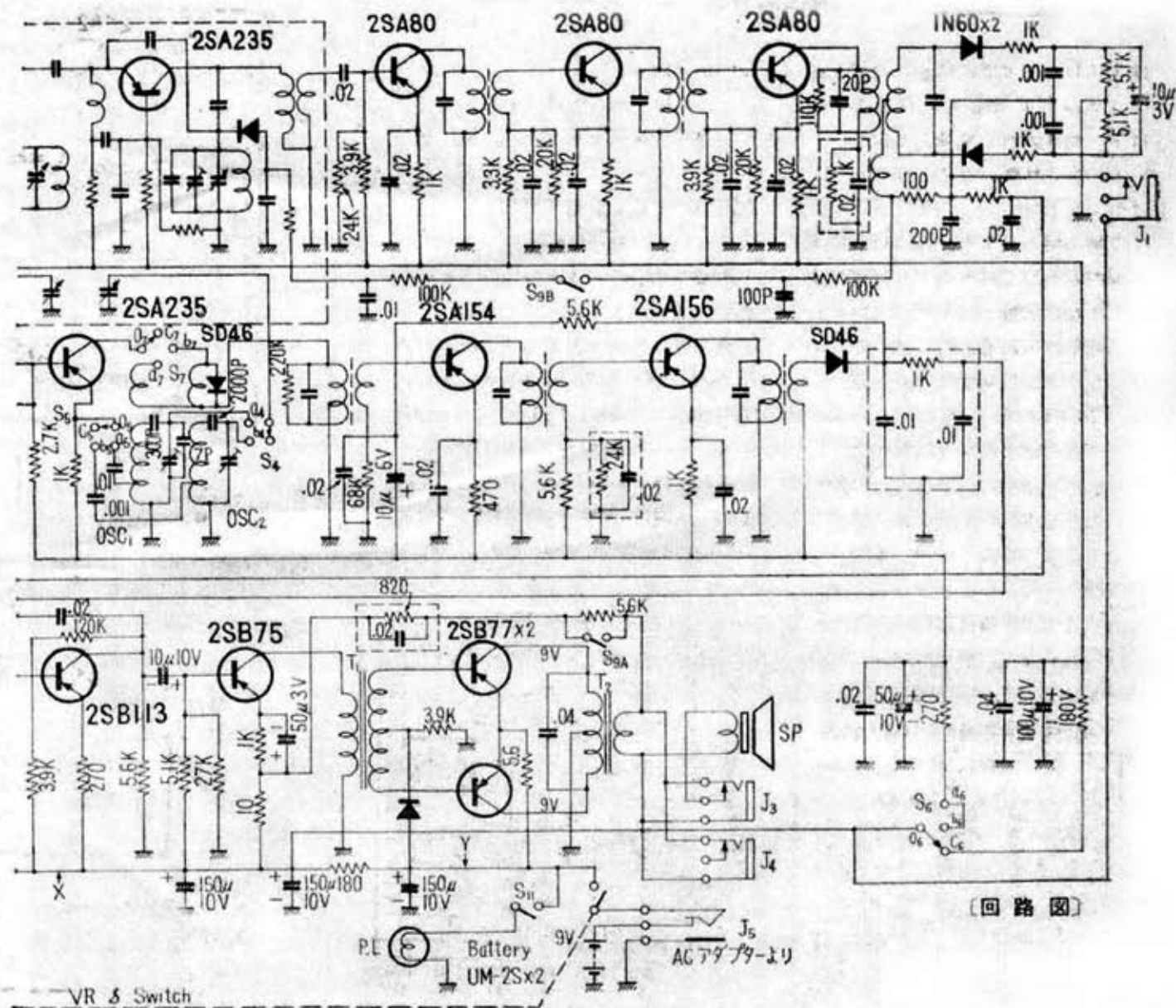
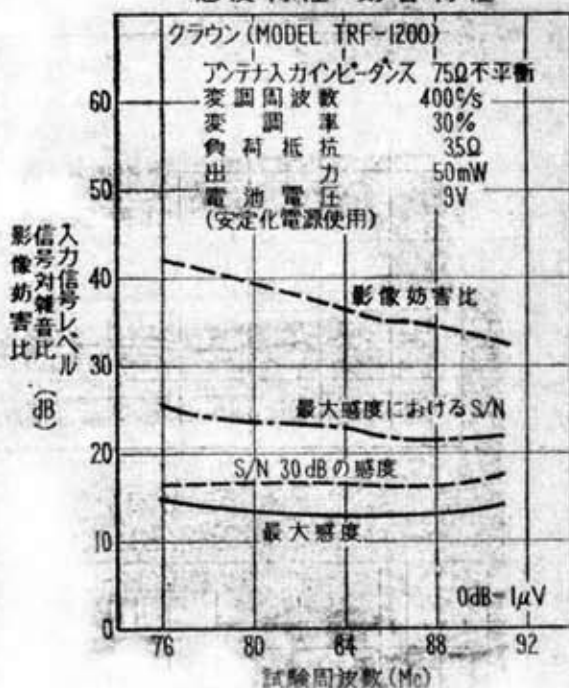
TRF-1200 はもちろん、この点を設

計で充分留意してあつたので FCC 規則は楽に通つた。

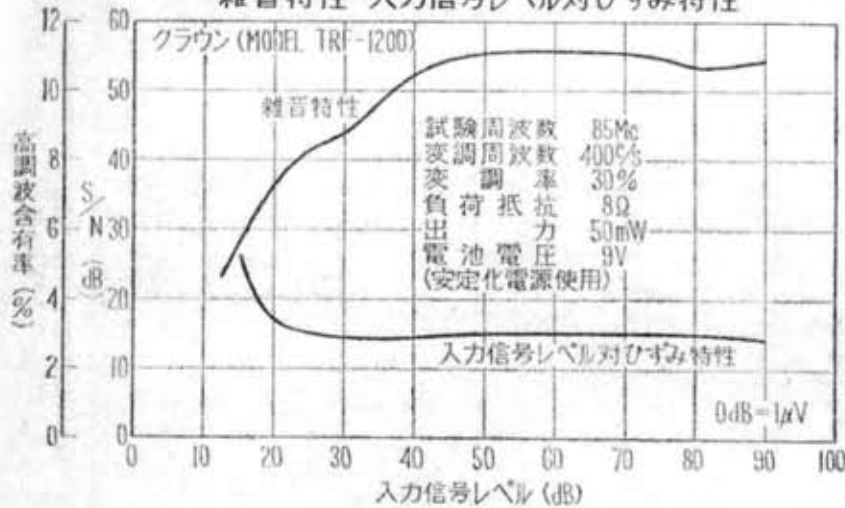
本機は電源に電池の他専用アダプタ使用により、家庭用交流電源からも使用できるようになっており、その点ホーム・ラジオとしても充分実用になる特徴を持っている。

外観は、写真でも判るように、フロント・パネルのダイヤル周囲、ツマミの周囲が、梨地金、スピーカ・ネットの部分はみがかれた金色と黒いダイヤル黒いツマミ及びキャビネットの一部であるパネル周囲の黒をのぞけば金色で構成されており、その他のキャ

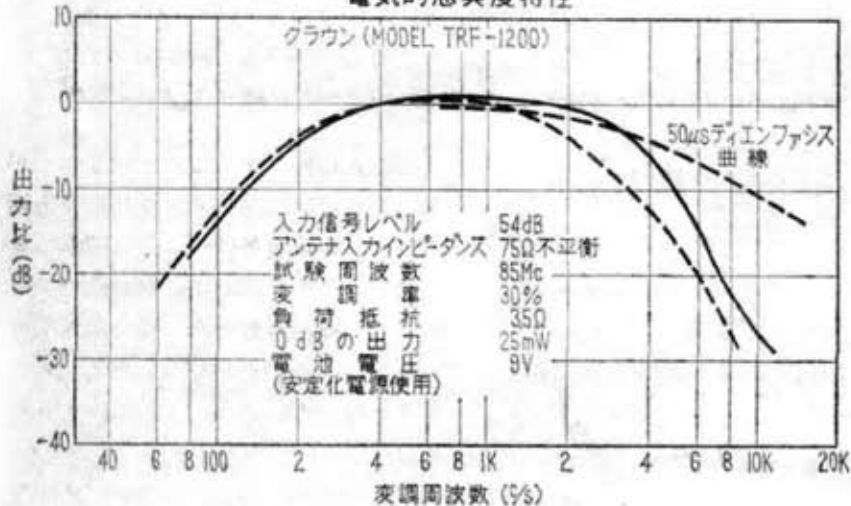
感度特性・妨害特性



雑音特性・入力信号レベル対ひずみ特性



電氣的忠実度特性



ピネットは黒色であつて、いわゆるアメリカ好みの配色となつている。ツマミの配置は右上から、同調、パッド切換、音量調整兼電源スイッチとなつている。

さらに左側側面には、FMマルチプレックス用端子、外部電源用端子、イヤホン端子の各端子がある。

特性について

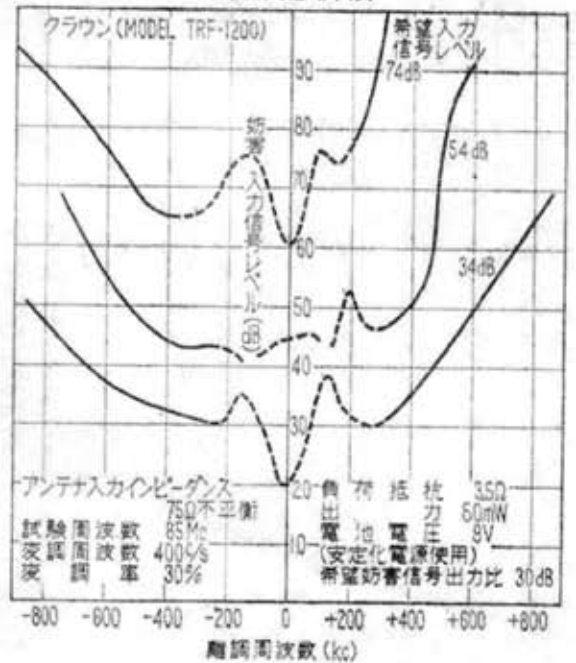
まず、感度特性から見ると、最大感度、実用感度とも、世界一級のレベルで、ゼニスのロイヤル2,000等に比して、決して劣るところはない。しかも、映像妨害比が 35dB前後、良いところでは 40dB以上であつて、これもすばらしいものである(ポリバリコン使用)

最大感度では 13dB 前後であるが、そのときの S/N が 23~4dB であつて実用上きいてきかれない状態ではない。入力信号レベル対ひずみ特性をみると、およそ 30% 前後であること

がわかるが、この程度の値は実用上差支えない値である。

Hi-Fi・FM ラジオとして考えるならば、ひずみはもう少し少なくなるのが当然であるが、ポータブル・ラジ

実効選択度



オの場合はオーディオ部分の性能をそれほど向上させることができないから、この程度のひずみの値ならば、前述のように十分実用になると考えられる。

出力を変えた場合のひずみをみるとまず、無歪最大出力が 230mW であることがわかる。このくらい出力ならば半セットとして十分であろう。

電氣忠実度もトランジスタ・ポータブルとしては、このカーブで格別に問題はなからう。

実効選択度度は中信号時において、左右いく分、合ひであるが、実用上差支えはあるまい。

